

2018年4月6日
日本銀行松山支店

愛媛の製造業の特徴と生産動向

(概要)

- 今次景気回復局面では、生産水準が愛媛と全国で概ね同水準であったところから、水準に乖離がみられはじめ、2017年入り後は愛媛の勢いが全国より鈍くなっているが、これには愛媛と全国で製造業の産業構造に違いがみられることも影響している。
- 2017年入り後、全国の生産活動が増加基調をたどる中、当地が緩やかな持ち直しに止まっている背景には、輸送機械工業と化学工業の生産が全国と比べて弱いことが挙げられる。
- 輸送機械工業については、全国は乗用車や自動車部品の生産が増加しているのに対し、当地の主力の造船業では、一部に生産水準を引き下げる動きがみられている。また、化学工業については、全体に占めるウェイトが最も大きいことから、生産低下などの影響が下押しに大きく寄与している。ただし、化学工業では、現在、生産統計の対象となっていない他分野への事業展開の動きもみられている。
- このほか、当地の生産活動は、一般機械工業を中心に、全国と比べて大きな振れを伴っていることも特徴である。
- 先行きについては、内需は増加基調が続くと考えられ、外需は全国並みが見込まれる。

本稿は、木村優吾が執筆しました。本稿の内容について、商用目的で転載・複製を行う場合は、予め日本銀行松山支店までご相談ください。転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。

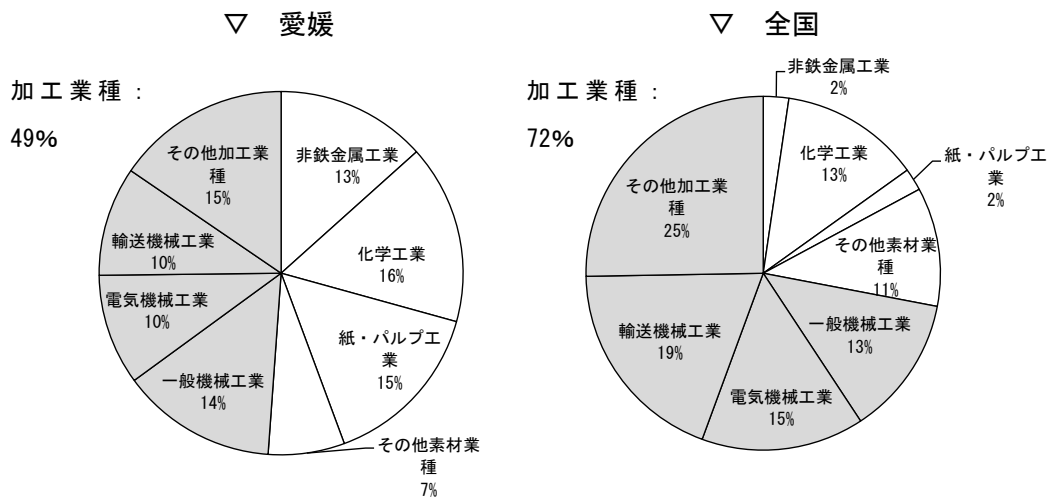
照会先：日本銀行松山支店総務課（TEL：089-933-2213）

本稿は当店ホームページ（<http://www3.boj.or.jp/matsuyama/>）にも掲載しております。

1. 愛媛の製造業の特徴

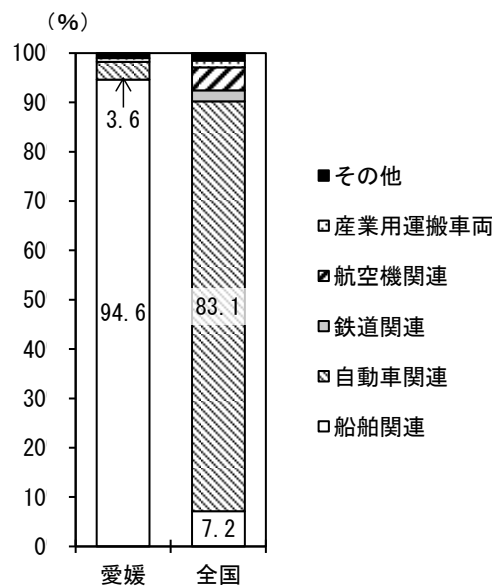
○ 愛媛の鉱工業生産指数（以下 IIP）の特徴は、加工業種が全国の約 7 割に対し、当地では半分以下となっており、輸送機械工業や電気機械工業のウェイトが低い点が挙げられる（図表 1）。また、輸送機械工業の製造品の内訳について従業者構成比でみると、9 割以上が船舶関連であるなど、自動車関連が約 8 割を占める全国と製造品に顕著な違いがみられる（図表 2）。愛媛の生産動向を把握する上では、こうした産業構造の違いを理解することが重要である。

（図表 1 愛媛と全国の IIP のウェイト＜2010 年基準＞）



(注) 1. シャド一部分は加工業種。素材・加工業種の分類は日本銀行「全国企業短期経済観測調査」に基づく。
 2. 愛媛と全国は IIP の採用業種が違うため、全国について「一般機械工業」は「はん用・生産用・業務用機械工業」、「電気機械工業」は「電気機械工業」と「電子部品・デバイス工業」を合算した値（以下同様）。
 (出所) 愛媛県「鉱工業生産指数」、経済産業省「鉱工業指数」

（図表 2 愛媛と全国の輸送機械工業の工業統計品別従業者構成比＜2014 年＞）



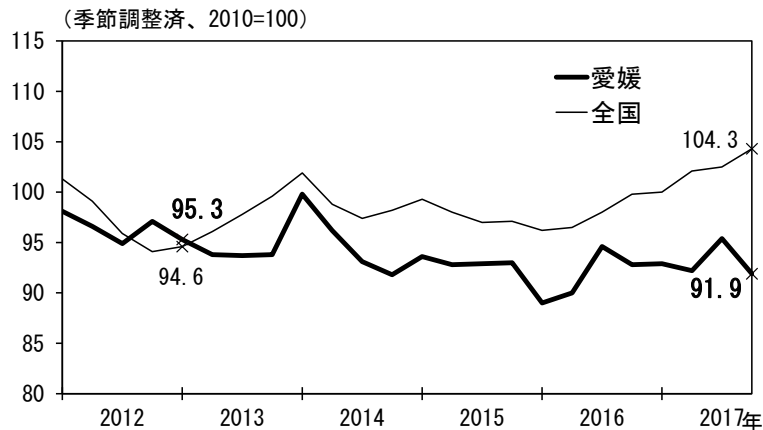
(出所) 経済産業省「工業統計表」

2. 今次景気回復局面の生産活動の推移

(1) 生産水準の動向

- 2013年第1四半期から始まる今次景気回復局面では、生産水準が愛媛と全国で概ね同水準であったところから、次第に水準に乖離がみられはじめ、2017年入り後は愛媛の勢いが全国より鈍くなっている(図表3)。

(図表3 愛媛と全国のIIPの四半期推移)



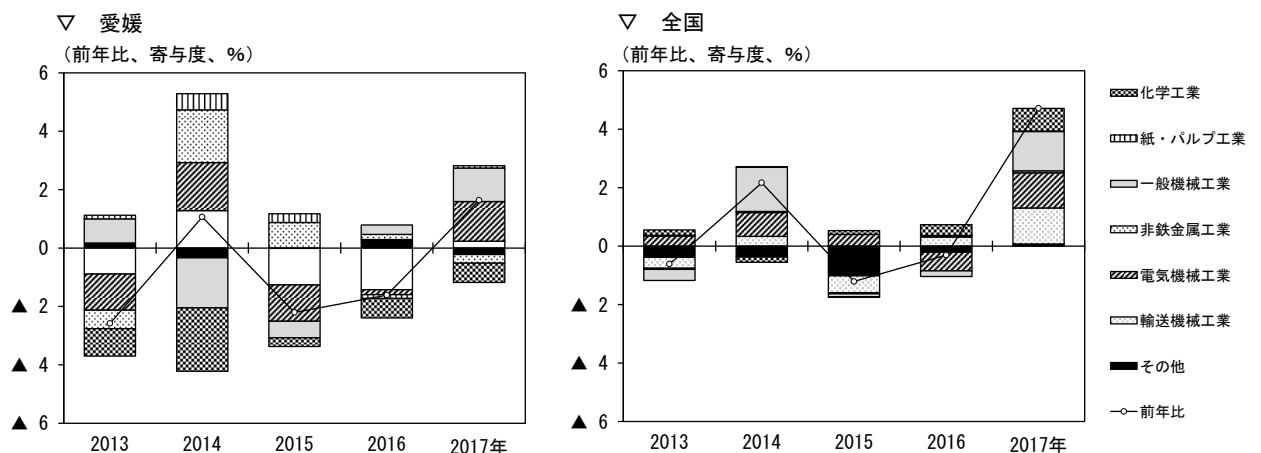
(注) 愛媛の四半期計数は当店で算出(以下同様)。

(出所) 愛媛県「鉱工業生産指数」、経済産業省「鉱工業指数」

(2) 愛媛と全国の生産水準乖離の背景

- この間の愛媛と全国の生産水準を年毎に振り返ると、低下局面では愛媛の減少幅が全国より大きく、上昇局面では愛媛の増加幅が全国より小さかったことから、生産水準に乖離が生じるようになった(図表4)。

(図表4 愛媛と全国のIIPの前年比業種別寄与度分解)



(注) 「その他」に季節調整誤差等を含む(以下同様)。

(出所) 愛媛県「鉱工業生産指数」、経済産業省「鉱工業指数」

— 例えば、2016年の低下局面では、全国では電気機械工業を中心に前年を下回った中、当地では輸送機械工業（船舶）で、海運市況の低迷を受けた新規受注の減少もあって、生産水準が低下したことを中心に、全国より大きく前年を下回った。

— 一方、2017年の上昇局面では、全国では電気機械工業、輸送機械工業、一般機械工業等の加工業種を中心に前年を上回る中、当地では電気機械工業を中心に前年を上回ったが、その増加幅は全国より小さかった。

（3）2017年入り後、全国と比べて弱めの背景

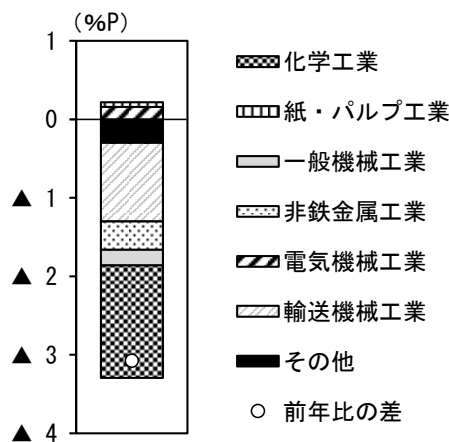
○ 2017年入り後、全国の生産活動が増加基調をたどる中、当地が緩やかな持ち直しに止まっている背景について、愛媛と全国のIIP（2017年）の前年比の差を業種別に寄与度分解してみると、①輸送機械工業、②化学工業の生産が全国と比べて弱いことが挙げられる（図表5）。

○ ①について、輸送機械工業が全国対比弱い動きとなっているのは、全国はウエイトの過半を占める乗用車や自動車部品の生産が増加しているのに対し、当地の主力である造船業では、外航船で一部に生産水準を引き下げる動きがみられている、といった産業構造の違いが背景となっている（図表6）。

○ こうした産業構造の違いを除くと、愛媛と全国の水準の差は縮まる（BOX参照）。それでもなお、②について、全体に占めるウエイトが最も大きいことから、2016年後半の当地化学工業の生産低下などがあった影響が下押しに大きく寄与している（図表6）。

○ もっとも、化学工業では、IIPの対象となっている汎用化学品の製造停止などがみられる中で、現在IIPの対象となっていない電気自動車向け素材や飼料添加物等へと、従来の化学製品から他の分野に事業を展開する動きもみられている。

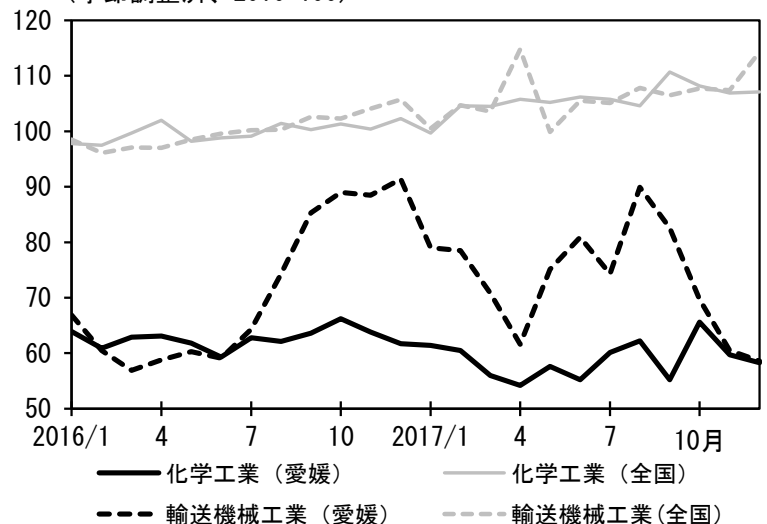
（図表5 愛媛と全国のIIP<2017年>の前年比の差および業種別寄与度分解）



（出所）愛媛県「鉱工業生産指数」、
経済産業省「鉱工業指数」

（図表6 愛媛と全国の化学工業および輸送機械工業IIPの推移）

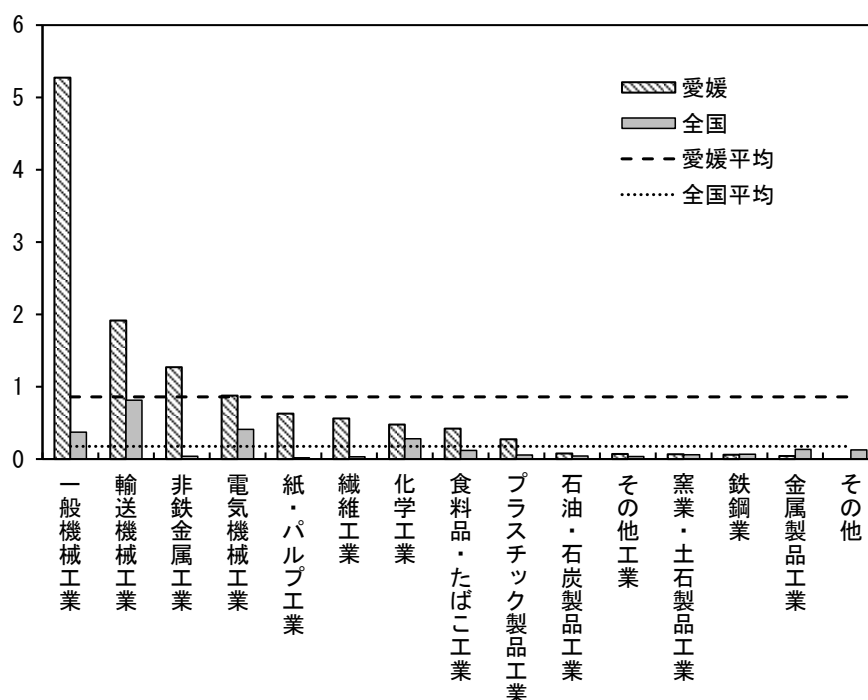
（季節調整済、2010=100）



(4) 生産活動が振れを伴っている背景

○ 当地の生産活動は全国と比べて大きな振れを伴っていることも当地の生産活動の特徴である(図表7)。これは一般機械工業の変動が中心となっており、主に大型のクレーンの生産動向によるところが大きい。クレーンは高水準の受注残を抱えるなど、総じてみれば高操業を続けているほか、繊維機械やはん用機械も増加しているなど、一般機械工業は、月次や四半期では振れるが増加傾向にある(図表8)。

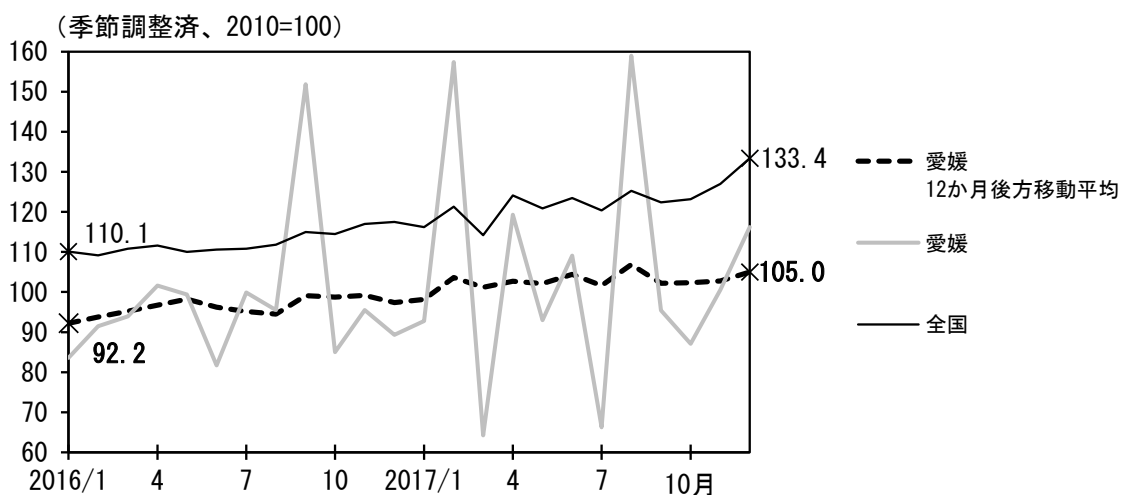
(図表7 愛媛と全国のIIPの前年比寄与度の標準偏差<2017年、月次>)



(注) 「その他」は愛媛では非採用品目となっている「情報通信機械工業」と「鉱業」。

(出所) 愛媛県「鉱工業生産指数」、経済産業省「鉱工業指数」

(図表8 愛媛と全国の一般機械工業IIPの推移)

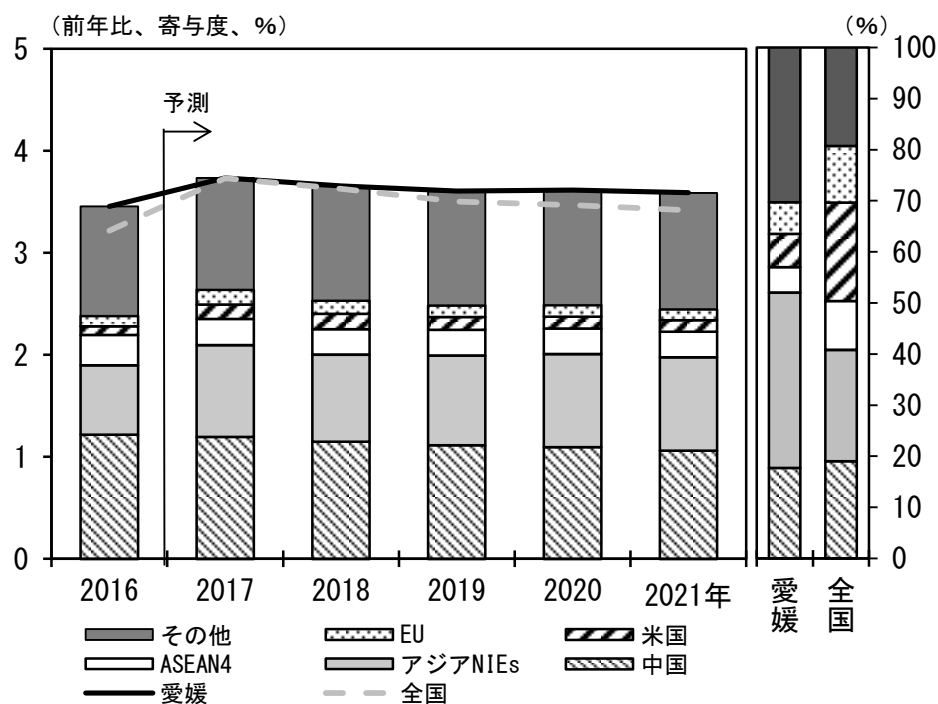


(出所) 愛媛県「鉱工業生産指数」、経済産業省「鉱工業指数」

3. 先行きの内外需要の見通し

- こうした中、先行きを展望すると、日本銀行の「経済・物価情勢の展望」¹では、国内需要は、きわめて緩和的な金融環境や政府の既往の経済対策による下支えなどを背景に、企業・家計の両部門において所得から支出への前向きな循環メカニズムが持続するもとの増加基調をたどるとみている。当地においても、産業構造の違いはありながらも、内需は増加基調が続くと考えられる。
- また、海外経済は、先進国の着実な成長に加え、その好影響の波及や各国の政策効果によって、新興国経済の回復もしっかりとしたものになっていくとみられることから、緩やかな成長を続けると考えられる。各国・地域の経済成長率を各国・地域向けの輸出額に応じてウェイト付けして、愛媛、全国が直面する海外経済の成長率をみてみると、愛媛は全国並みの外需が見込まれる（図表9）。

（図表9 愛媛と全国が直面する海外経済の成長率および2017年の輸出先ウェイト）



- (注) 1. 以下の国・地域の各年の成長率を、愛媛、全国の通関輸出ウェイトで積み上げたもの。中国、韓国、台湾、香港、シンガポール、米国、EU、タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア。
「その他」の国・地域については、愛媛は中南米向け等の便宜置籍船が多いことを考慮し、世界経済の成長率を用いて計算。
2. アジアNIEsは韓国、台湾、香港、シンガポール。ASEAN4はタイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア。
3. 2017年以降の成長率は、IMFの各国GDP予測を愛媛、全国の2017年通関輸出ウェイトで積み上げたもの。

(出所) IMF "World Economic Outlook Database October 2017"、財務省「貿易統計」

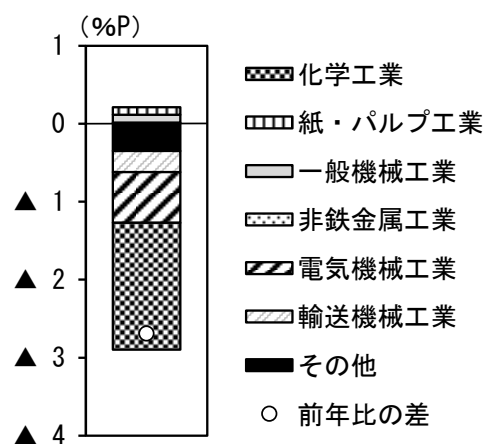
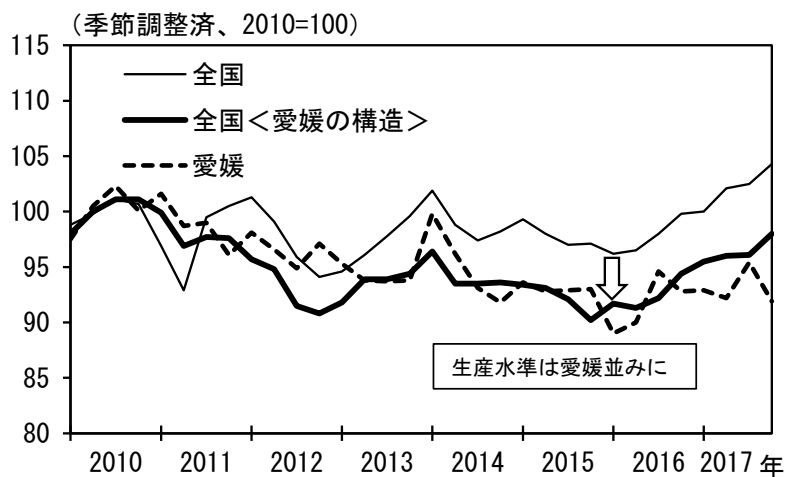
¹ 2018年1月23日公表分

(BOX 産業構造の違いを考慮した愛媛と全国の生産水準比較)

- 前述のように、輸送機械工業における自動車と船舶など、愛媛と全国とで業種内で製造する品目の違いや、各業種の全体の生産に占めるウェイトの違い、といった産業構造の違いによって愛媛と全国とで生産の水準や勢いに乖離が生じている。
- こうした産業構造の違いを除いて考えるために、愛媛の業種別品目別ウェイトを用いた全国の IIP (全国<愛媛の構造>) の試算を行った。具体的には、愛媛の輸送機械工業の品目である「鋼船」に全国の輸送機械工業の「船舶・同機関」IIP を用いるなど、各業種の品目ごとに該当する全国の IIP を用い、最後に品目ごとのウェイトで加重平均した総合指数を計算した。
 - この際、愛媛のみ採用している品目や、愛媛の IIP ウェイトが 1%以下の品目については、簡略化のため、同品目が含まれる全国の業種の IIP を使用。
- こうした結果、輸送機械工業における自動車と船舶の違い等がなくなり、生産水準の差は小さくなる (図表 10)。ただし、2017 年の生産活動の勢いが、愛媛の方が全国<愛媛の構造>より弱くなっているのは、前述の通り、化学工業における生産低下が当地固有の動きとして下押しに寄与していることが主因となっている (図表 11)。

(図表 10 全国、全国<愛媛の構造>、愛媛 IIP の推移)

(図表 11 愛媛と全国<愛媛の構造>の IIP<2017年>の前年比の差)



(出所) 愛媛県「鉱工業生産指数」、経済産業省「鉱工業指数」

以上